

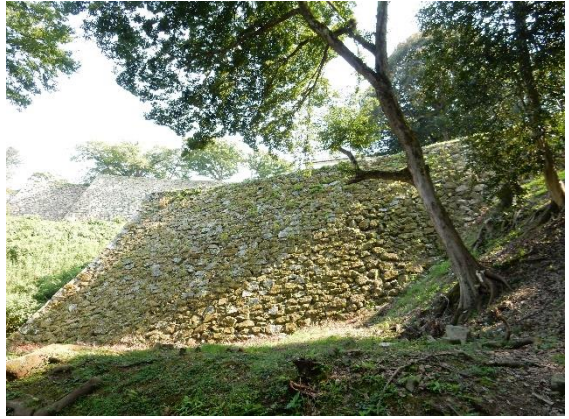
# 彦根城

世界遺産登録推薦書原案

(概要)

2021年3月

滋賀県・彦根市





## 1. 締約国

日本

## 2. 地域

滋賀県

## 3. 資産名称

彦根城

## 4. 所在位置

本資産は、日本列島のほぼ中央にある琵琶湖の東岸地域に位置している。座標は以下に示すとおりである。

北緯 35° 16′ 35″

東経 136° 15′ 6″

## 5. 資産の境界に関する記述

資産の範囲は、文化財保護法に基づき特別史跡に指定されている範囲に従って決定されている（ただし、その指定範囲に挟まれた市道の一部範囲は、彦根市文化財保護条例に基づく環境保全地域として保護されている）。

緩衝地帯の範囲は、資産の顕著な普遍的価値への影響を未然に防ぐため、自然環境に配慮しつつ、道路・線路等の土地利用物を考慮して、資産範囲を包含する範囲に設定されている。

## 6. 資産および緩衝地帯の地図

5～6 ページに示すとおり。

## 7. 評価基準への適合

(iii), (iv)

## 8. 顕著な普遍的価値の言明

### a. 概要

彦根城は、日本列島の東西の結節点に位置し、17世紀から19世紀半ばの政治拠点であった「建築土木装置」の構造・機能をあらわす、最もよく保存された見本である。

17世紀の東アジア諸国は、政治的混乱を克服して国内外の秩序を再編成し、安定化を達成した。17世紀に成立し、19世紀半ばまで続いた日本の政治体制は、その安定した秩序を担った主体の1つであり、世界的に見て独特の政治体制だった。

この日本の政治体制は、幕府と藩によって、全国規模で政治の仕組みが標準化されたことを特徴とする。全国の統治権を持つ幕府は、地方の藩へ一定の領域を与えた。藩は、その領域内において自立した権限と財源を持ち、大名を頂点とする階層的な組織によって、領域全体を一元的・集約的に統治した。彼ら統治者は、領民を保護し、安定した社会を維持することに責任を負った。このように、分権的であると同時に全国的に標準化された政治体制は、他国とは異なる独特のものであり、200年以上にわたって安定した社会を維持し、日本全体の持続的な発展に貢献した。

彦根城は、この時期の地方の政治拠点の1つである。築造の経緯から、彦根城がモデルの1つとなって、全国の藩の拠点である「建築土木装置」が標準化され、日本の独特の政治体制が実現した。その構造・機能は、2つの特質によって説明できる。第一は、階層的な配置・平面計画である。領域全体の政治に必要な機能を一元化・集約化し、同心円状の全体構造の中に配置したことは、大名を頂点とする階層的な組織構造とその自立性を反映していた。第二は、視覚的な象徴性である。周辺地域から広く視認できる外観は、自立した政治権力の存在とその正統性を示していた。また、城域の内外は、石垣・堀などの視覚的な境界によって区切られ、内部が特別な役割を担う空間であることを示していた。

これらの標準化された「建築土木装置」は、19世紀後半に政治体制が転換すると役割を終え、そのほとんどが取り壊されていった。その中で、彦根城は、住民の強い願いによって例外的に保存されることになり、その後も戦災や開発などで失われることがなかったため、その階層的な全体構造と象徴的な外観が現在に至るまで伝えられている。

以上により、彦根城は、東アジアの政治的混乱を克服して安定した秩序がつくられた歴史上の段階における、日本の独特の政治体制を物語る「建築土木装置」の傑出した証拠として、顕著な普遍的価値を有している。

## b. 評価基準への適合性の証明

### 評価基準(iii)

彦根城は、17世紀から19世紀半ばの日本における、独特の政治体制を物語る「建築土木装置」の傑出した証拠である。

この時代の日本では、階層的な全体構造と象徴的な外観を持つ標準化された形式の「建築土木装置」が全国につくられ、それを拠点にして、藩がそれぞれの領域を自立的に統治していた。この分権的であると同時に全国的に標準化された政治体制は、それぞれの領域において領民の保護と安定した社会の維持を担い、日本全体の持続的な発展に貢献した。この政治体制は、他国や日本の他の時代には見られない独特のシステムであり、この時代の日本に特有の文化的伝統である。

### 評価基準(iv)

彦根城は、17世紀から19世紀半ばの日本において政治拠点として機能した「建築土木装置」の顕著な見本である。これは、東アジアの政治的混乱が克服され、200年以上にわたって国内外の秩序が安定した歴史上の段階を物語るものである。

この「建築土木装置」は、幕府と藩による政治体制の標準化に対応して、その構造・機能が全国的に標準化された。政治拠点機能を一元化・集約化して同心円状に配置した平面計画は、階層的な藩の組織構造とその自立性を反映していた。外部から広く視認できる象徴的な外観は、自立した政治権力の存在とその正統性を示していた。こうした特質を持つ「建築土木装置」は、近世の政治体制の成立とともに全国でほぼ一斉に築かれ、200年以上にわたって維持された、この時期の日本に特有の類型である。

## c. 完全性の言明

彦根城は、17世紀から19世紀半ばの日本の独特の政治体制を物語る「建築土木装置」として、完全性を有している。本資産の範囲は、二重の堀によって囲まれた第一郭・第二郭の全域と、その外側のうち埋木舎を加えた範囲である。本資産の顕著な普遍的価値を伝える特質、つまり階層的な配置・平面計画、視覚的な象徴性は、資産の全体構造とその外観、資産範囲内に現存する要素によって示すことができる。

資産は、文化財保護法に基づく特別史跡等として保護・管理されており、顕著な普遍的価値を損なうような開発や管理放棄による負の影響は生じない。緩衝地帯は、景観法や都市計画法等に基づく規制により、望ましい周辺環境が保全されている。

#### d. 真実性の言明

本資産の真実性は、彦根城に関する十分な歴史学・考古学・建築学等の調査研究によって裏付けられている。資産全体と資産範囲に含まれる考古学的遺構、石垣・堀、建造物、庭園などは、「形状・意匠」「材料・材質」「用途・機能」「伝統・技能・管理体制」「所在地・周辺環境」について、高い真実性を保っている。

#### e. 保護・管理上の要件

本資産の範囲は、文化財保護法に基づく特別史跡等に指定され、行政と所有者が連携し、保存活用計画を策定して適切に保護・管理を行っている。

緩衝地帯は、資産の顕著な普遍的価値への負の影響を防ぐために十分な範囲を設定し、景観法、屋外広告物法、都市計画法、文化財保護法等に基づく土地利用規制および保護・保全計画を設け、万全の法的保全措置を講じている。

滋賀県と彦根市は、資産の顕著な普遍的価値を保護し、周辺環境と一体となった保全を行うために「包括的保存管理計画」を策定し、それを実行する。県と市は、イコモス会員を含む専門家の委員会や文化庁からの指導・助言を受け、所有者や地域コミュニティとの連携のもと、資産と周辺環境の保護・管理、公開・活用を実施する。

## 9. 連絡先

### 文化庁 文化資源活用課

住所：〒100-8959 東京都千代田区霞が関3丁目2番2号

TEL：+81-3-5253-4111

FAX：+81-3-6734-3822

E-mail：

URL：<http://www.bunka.go.jp/>

### 滋賀県 文化スポーツ部 文化財保護課 彦根城世界遺産登録推進室

住所：〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1番1号

TEL：+81-77-528-4682

FAX：+81-77-528-4833

E-mail：[hikonejo@pref.shiga.lg.jp](mailto:hikonejo@pref.shiga.lg.jp)

URL：<http://www.pref.shiga.lg.jp/>

### 彦根市 歴史まちづくり部 文化財課 彦根城世界遺産登録推進室

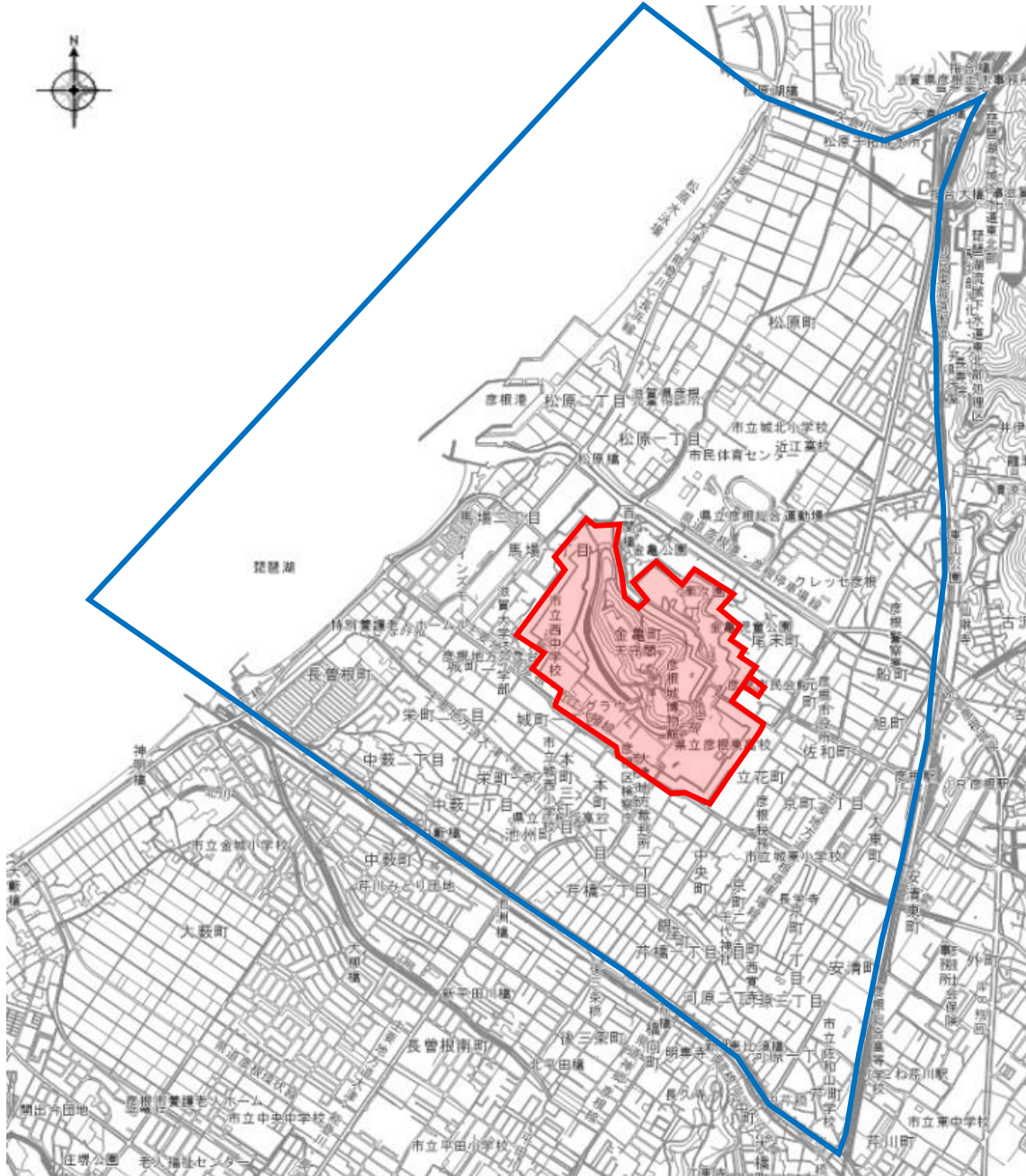
住所：〒522-0001 滋賀県彦根市尾末町1番38号

TEL：+81-749-26-5834

FAX：+81-749-27-3554

E-mail：[hikone-wh@ma.city.hikone.shiga.jp](mailto:hikone-wh@ma.city.hikone.shiga.jp)

URL：<http://www.city.hikone.shiga.jp/>



凡例

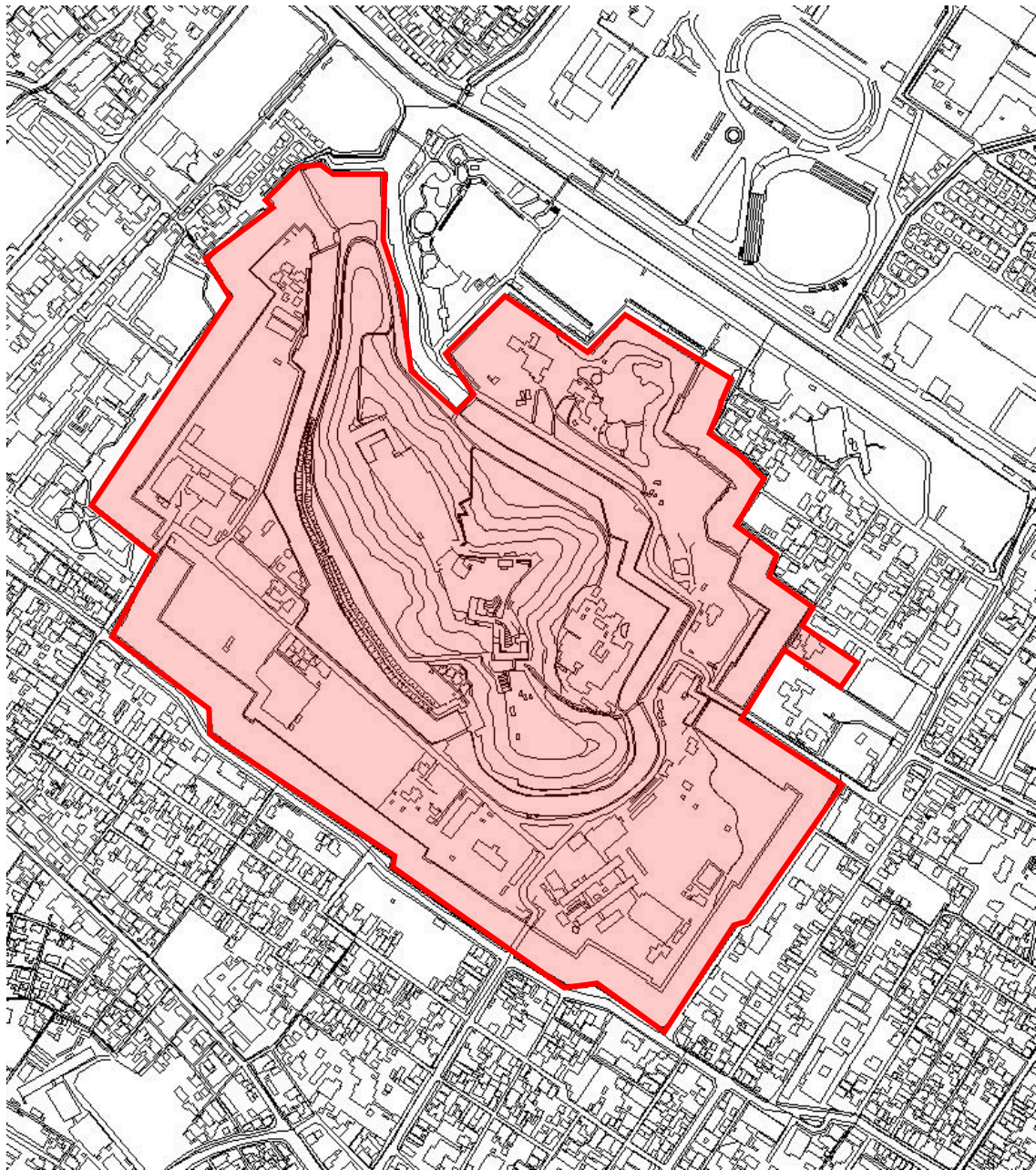
- 資産範囲
- 緩衝地帯

SCALE 1 : 25,000




資産および緩衝地帯の範囲





凡例

 資産範囲

SCALE 1 : 8,000



資産の範囲

## 彦根城の顕著な普遍的価値を伝達する2つの特質

### 幕府と藩による政治体制を実現させた「建築土木装置」

= 領域全体の政治のための最適地に立地し、藩の唯一の政治拠点として定められた。  
彦根城がモデルの1つとなって、構造・機能が全国的に標準化された。

彦根城は、

- ・「建築土木装置」の全国的な標準化のモデルのため、特に典型的な構造・機能を持つ。
  - ・現存する資産によって2つの特質を表現できる、最も保存状態の良い見本である。
- ⇒彦根城は、17世紀から19世紀半ばの日本の独特の政治体制を物語る「建築土木装置」の傑出した証拠である。

### (a) 階層的な配置・平面計画

- ・ 領域全体の政治のために必要な機能を一元化・集約化し、石垣・堀によって区切られた同心円状の全体構造の中に配置することで、大名を頂点とする階層的な組織構造とその自立性を示した。
- ・ 階層的な組織構造・秩序を維持するための儀礼空間を有していた。



石垣・堀で階層的に  
区切られた全体構造





### (b) 視覚的な象徴性

- ・ 天守を中心とする、周辺地域から視認できる外観によって、自立した政治権力の存在とその正統性を示した。
- ・ 城域の内外を区切る視覚的な境界によって、外部の都市空間と厳密に区別される、特別な役割を担う空間であることを示した。



天守

城山・樹木など



櫓・門



石垣・堀



